

第13号

「PMFを応援する会」会報

# 協奏

2015年5月25日

## 次の四半世紀に向けて ～市民力が世界を結ぶ～

(公財) PMF組織委員会常務理事 林 泰男

PMFを応援する会みなさま、この4月からPMF組織委員会で仕事をする事になりました林です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、3月まで芸術の森に隣接している札幌市立大学で仕事をしておりました。デザインと看護の二つの分野で、次代を担う人材を育てる大学の現場に2年ほど身を置いておりました。私は教員ではないので学生に何かを教える機会はありませんでしたが、若者のエネルギーを身近に感じ、彼らが成長し巣立っていく姿に接することができて、その仕事を誇りに感じておりました。



PMFの仕事に就いて1ヵ月。やらなければならないこと、勉強しなければならないことが山積していますが、知れば知るほど心の燃えるPMFです。人を育て、世界に送り出す。札幌の夏を音楽で彩る。人と人が出会い、つながる。

PMFは、昨年25回記念という節目を迎え、今年は、次の四半世紀に向けて新たな一歩を踏み出します。これまで多くの方々に支えられ、市民みなさんに育てていただいたPMFが、一層その輝きを増すように、精一杯努力をしていきたいと思っています。

PMFを応援する会みなさまには、これまで本当にいろいろな形でご支援をいただいております。札幌の市民力が世界を結ぶPMF。どうか、今後もよろしくお願いいたします。

### 「PMF募金」から6回目の寄附～応援する会の皆さまのご協力に感謝～

「PMFを応援する会」は皆さまからの変わらぬご支援をいただき2014年度も活発な活動を展開することが出来ました。

この5月には皆様のお気持ちの結晶である「PMF募金」より(公財)PMF組織委員会に6回目の寄附70万円をお届けします。

「皆様のPMF」一層の飛躍に大切な糧として育って行くことでしょう。

また、2014年度活動内容報告、2015年度活動計画のお知らせと併せて4月に就任されたPMF組織委員会常務理事のことばをお届けできることを大変嬉しく存じます。

新年度も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「PMFを応援する会」 会長代行 鈴木 敏明

# 「PMFを応援する会」の2014年度の活動をご報告いたします。

## 平成26年度（2014年度）事業報告（2014年4月1日～2015年3月31日）

(1)	定例役員会 12回	H26年4月～H27年3月
(2)	臨時役員会 1回	H27年3月9日
(3)	会計監査	H26年4月10日
(4)	定例総会	H26年4月24日
(5)	2014年度募金寄付（70万円をPMF組織委員会、中西常務へ）	H26年5月9日
(6)	「カフェ・サロン」開催 3回	
	① 第1回 「若い世代につなぐPMFの響き」 小・中・高スクールバンド吹奏楽クリニック、PMF修了生による指導とコンサート	H26年6月21日 パークホテル 参加者延200名
	② 第2回「ピクニックコンサートで会いましょう」 「トークPMF事始め（元PMF組織委員会、芸術の森役職者）」とミニコンサート *芸森アリーナ使用不可のため急遽「カフェ・デイ・レニー」で開催	H26年8月3日 カフェ・デイ・レニー 参加者30名
	③ PMF創設者パーンスタインを偲ぶ「ニドムツアー」 ニドム副社長による思い出トーク、散策、ミニコンサート等	H26年11月6日 ホテルニドム 参加者60名
(7)	フェローミーティング PMF啓発推進活動として、フェローメンバーの集い フェローメンバー 15名 大平まゆみ、仮谷志郎、栗林ゆか、熊谷ユリヤ、柴田千賀子、高橋徹、武田康孝、竹津香苗、橋本信夫、畠中秀幸、花井美恵子、森口力、山本修嗣、渡邊悟、渡邊浩（敬称略・五十音順）	H27年1月20日 エルプラザ  出席者 フェロー7名 役員6名
(8)	看板設置、PMFフラッグ掲出 協力：（公財）札幌芸術文化財団芸術の森事業部、芸術の森地区PMF支援サークル	
(9)	会報誌「協奏」10号（5月8日）、11号（10月7日）、12号（H27年2月23日）発行	
(10)	「HP」の発信・管理 「協奏」UP、Facebook トライアル	
(11)	年間を通じた活動：PMFの市民への啓発活動及び募金活動	
*	7月に会長急逝、会長席空白のまま副会長が会長代行として活動、現在に至る	

## 平成26年度（2014年度）の決算報告（2014年4月1日～2015年3月31日）

- (1) 募金収入 328件 1,162,338円（件数で前年比 -4件 金額で前年比 +203,801円）  
 (2) （公財）PMF組織委員会への寄付金額を70万円とすることを決定した。

## 平成26年度（2014年度） 月別募金件数と金額

4月	10件	25,000円	9月	3件	13,338円	2月	19件	48,000円
5月	91件	295,000円	10月	51件	166,000円	3月	52件	172,000円
6月	31件	202,000円	11月	23件	97,000円	合計	328件	1,162,338円
7月	8件	18,000円	12月	20件	88,000円			
8月	8件	16,000円	1月	12件	22,000円			

・・・ありがとうございました、お名前の読み方がまちがっていましたらお許しください・・・

《募金者名》

2014年4月1日～2015年3月31日 敬称略 五十音順

赤石尚一	上松 瑛	角谷知子	近藤千鶴子	杉中隆三	丹野美佐子	羽賀俊子	藤森亜矢子	森下裕一
赤石知恵子	氏家 武	金谷眞木子	西條雅穂子	杉中佐智子	千田宏三	蓮見 孝	古川善雄	八木幸三
赤坂 博	氏家公子	鎌田光夫	斎藤昭夫	杉本 敏	對馬 麻紀子	長谷川ひろ子	宝迫美穂子	矢田部洋子
足立慈子	氏家なを	仮屋志郎	斎藤公美雄	杉本智子	天日一光	畑 智子	細越俊介	山下喜美子
雨貝尚子	内柴香緒理	河内和子	齊藤詔子	杉山利子	天日彰子	畑 洋子	堀江三千代	山岸三絵子
安部桂子	内山しおり	川崎美紀	斎藤美年子	鈴木 喬	土佐美佐子	花井美恵子	本田伊織	山口茂子
阿部和男	梅谷康子	川端習太郎	齋藤美登里	鈴木敏明	徳永 純子	樋口 充	本田晶子	山中幸光
阿部和加子	大久保玲子	河島瑛子	齋藤淑子	鈴木陽子	徳永隆史	平原弘美	本田良一	山中三知
阿部裕昭	大城戸瑞子	河邨宜子	斎藤みちみ	須田俊彦	徳永 洋	平松明子	本間雅代	山本英紀
阿部千秋	大谷慎一	紀室昌範	榊原綾子	須田和子	戸谷真智子	平松久美子	本間良子	山本真平
荒井智佳子	大谷洋子	工藤和子	佐々木勇美	須田真彰	中尾邦幸	廣瀬キミ子	牧原和美	湯原光子
安藤佳枝	大西久恵	工藤由基子	笹田政彦	須田 恵	中野清恵	廣瀬義勝	松川博	横路孝弘
井浦功雄	大和田勝弘	久住孝之	佐藤勝子	鷺見 武	中村隆志	広田 總	松川早苗	横路由美子
生野敬子	岡田日出男	熊本寛見	佐藤延子	鷺見陽子	中村千賀子	広田美貴子	松田隆雄	横山憲治
石井 恵	岡部文子	倉岡修子	佐藤真紀子	関 蓉子	名取 章	広田一郎	松田規子	横山圭子
石岡奈緒美	岡本早苗	栗林千矢人	坂尻康平	大 公一郎	鍋田多美子	廣田康廣	益田 遙	横山 真
池田静子	荻野弘子	柴原丈千代	坂野康子	鷹野正義	西崎孝	廣尾真理子	松宮従子	米谷弘文
石田時也	奥村茂樹	桑原登美恵	坂本慶子	高橋 来	西崎衿子	福田 剛	丸山晃一	若月富男
石田安喜良	奥村 昇	後藤 道	澤口恵子	高橋実規子	西川 優	福本順子	丸山清子	若月公子
一色晴子	奥村道子	後藤弘子	塩澤正樹	高橋 徹	西村建二	伏木忠了	三浦順子	若月香織
猪熊セツ子	小野サダ子	小林 郁子	司馬政一	滝沢慶彦	仁衡恭子	藤井和義	三上武美	綿石 弘
石橋喜重子	小野美代子	小松宏人	島内猛彦	竹津香苗	根本常子	藤井正一	三木 蘭	渡邊 悟
伊藤一雄	加々谷玲子	コレット美香子	島田宏子	竹田芳昭	野澤千恵子	藤田薫子	三宅三智子	渡辺紀子
伊藤龍子	加賀谷三洋	今 裕子	篠田 洋	田中 薫	野上まさ子	藤田澄江	宮本 宏	(株)ザニドム
伊藤光湖	垣田恒子	近藤恭介	白石敬子	田中秀実	野村映子	藤原裕倫	水沼多江子	北海道循環器病院
伊藤敬子	加藤静江	近藤 崇	渋谷光一	谷内 茂	信本俊一	藤原俊彦	目加田 懋	レニー募金箱
井上睦子	加藤紘子	近藤光子	菅波康郎	谷口哲雄	橋本信夫	藤原夏樹	森口 力	

## 「PMFを応援する会」の2015年度の活動計画をお知らせいたします。

1.	<p>カフェ・サロン全5回</p> <p>① 6月6日 大谷大学生とゾリステンとのクリニック協力とカフェ開催（札幌大谷ホール）</p> <p>② 8月2日 ピクニックコンサートでのカフェ開催（芸術の森アートホール、ロビー）</p> <p>③ 会期終了後（10月）ニドムツアー</p> <p>④ フェローミーティング開催 適宜</p> <p>⑤ 議員（道議・市議）ミーティング（アンケート調査）</p>
2.	<p>地域とのコラボ事業</p> <p>芸森入り口看板設置・フラッグ掲出（芸森の承認・地域の企業協賛・設置事業者の協力・OC承認）</p>
3.	<p>募金活動の活性化</p> <p>寄付金贈呈の新しい試み、次世代への周知活動</p> <p>One-click募金の検討・実行（海外修了生に向けての募金活動の実現）</p> <p>フェローの活動領域充実のための対策検討と実行</p> <p>寄付金の使途を募金者に見える方法の検討と実行（OCとの折衝）など</p>
4.	<p>「協奏」発刊 3回</p> <p>市民の声を反映 発行に関わる費用の捻出を考える——バナー広告など</p>
5.	<p>その他</p> <p>名義後援・共催事業を探る</p>

## 連載企画 「私とPMF」(第4回)

●札幌大学教授

●元PMF通訳者(第1回～第21回)

札幌市

●PMFを応援する会フェロー

●北海道通訳アカデミー教務顧問・特別講師

熊谷 ユリヤ

私とPMFの関わりは、第一回の1990年に広報担当の通訳者として雇用され、会議やコンサートの通訳も依頼されたことに始まります。3年目からはレニー(バーンスタイン氏)の元マネージャーでPMF組織委員会顧問のハリー(クラウト氏)の専属通訳として、2003年にハリーが引退するまで、事務局との会議を含めたアテンド通訳。同氏の引退後も2010年まで、コンサート、セレモニー、レセプション、取材などの通訳を担当させて頂きました。



ハリーさんとユリヤさん 1997年

引退して札幌を去る前夜、ハリーは、「北京ダックでPMF最後の晚餐をしよう」と私を招待してくれました。1989年の北京での企画が天安門事件で中止となり、札幌にPMFが舞い降りた歴史を彷彿とさせる演出でした。レニーの魂に乾杯し、「晚餐」が開始。ダックが届いて「美味しい！正しい選択ですね」と言う。「レニーの音楽の遺産を次世代に託す地は、北京ではなく札幌が正しい選択だった」とハリーは答えました。

14年間の思い出話に花が咲き、ニドムや芸術の森でのレニーの思い出、レニーの遺志を守り、PMFをタングルウッドと並ぶ世界的教育音楽祭にする戦い、(アジアに偏らず)世界中から有能な若手音楽家を惹きつけるため、一流のアーティストに出演交渉をし、フェスティバルの顔である芸術監督の希望を叶えるための闘いの話も。(田熊勉初代事務局長が2014カフェ・サロンで語ったように)最初の数年間は、会議室の外まで怒鳴り声が聞こえるほど事務局と対立したこと、次第に“事務局4T(田熊、竹津、田口、武井の四氏)+1M(後任の前田局長)”との間に「不思議な友情」が芽生えたことや、PMFボランティアとの長年に亘る友情の話も。

ピクニックコンサートのように事務局に受け入れられたアドバイス、叶わなかった「資金集めダンスパーティー」や「札幌ドームで日本の実力派人気シンガーを迎えてのPMFコンサート開催」などの話題の後、「事務局雇用の通訳者でありながら、時に意見が対立する自分の通訳者として苦勞をさせた」と初めて労われた私は、「異文化間の架け橋としての通訳研究に加えて、故郷札幌が世界の音楽界に認められるお手伝いが出来て幸せでした」と答えました。

「ダックが食べきれないので持ち帰りたい」と言う私の希望が「食中毒の危険のため」拒否されると、ハリーは支配人を呼びつけ、アーティストのために舌戦を展開する時のように様々な条件を出し理論的に交渉。結局、「今夜中に必ずお召し上がりください」と手書きされた保冷剤入りの箱でお持ち帰りできることになりました。

別れ際、「PMFの創世記本を出版する」と言うハリーに「通訳者は裏方に徹するのが基本。守秘義務もあるので」と断ると、「貴女は単なる通訳者ではなくPMFの成長の証人だ、私は何も隠すことはない。目の当たりにした事を全て書くべきだ」と。「ではいつかレニーとハリーのPMF物語を」と答えたものの、私の中のPMFは、ハリーが去った年からスローモーション化、2011年の会期を前に時計が止まりました。

「2011年からはプロではなくボランティア通訳者を使うことにした」との風の便りや「ユリヤさんは通訳料が安すぎると断ったそうさ」という事実無根の噂も聞こえ、25周年出版を目指して書き始めていた原稿も断筆していました。

「応援する会」には2013年度のカフェ・サロンで「バーンスタインとその盟友の物語」の講演の機会をいただき、今年はフェローに就任させて頂き感謝しています。この原稿を書きながら、「私の奮闘と4T+1Mとの友情の記録を書けるのは貴女しかいない」というハリーの声が聞こえる気もしています。



2014カフェ・サロン、「トークPMF事始め」は  
<http://pmf-support.main.jp/> 協奏11号で読めます。



## 「PMFを応援する」\* 6月・8月 \* 関連イベントスケジュール

### 2015年度 第1回カフェ・サロン 6月6日(土)

昨年度はPMFを次代に引き継ぐ事を願って、「吹奏楽クリニック」を開催致しました。今年度は同じ目的で、「吹奏楽レクチャー&コンサート」に当会が協力させていただくことになりました。音楽にかける若々しい情熱とエネルギーをお楽しみいただきながら、7月12日に開幕するPMF2015に期待していただきたいと思います。

米屋久男 × 札幌管楽ゾリステン

2015年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲

### 全曲レクチャー & コンサート

6月6日(土) 14:00・17:00 札幌大谷記念ホール  
札幌市東区北16条東9丁目1-1

チケット： 一般 **¥2,500**・学生 **¥1,000**

(当日会場でお求めください)

- 当日は会場ロビーで当会のコーヒーサービスがございます。
- PMF組織委員会が「バーンスタイン・メモリアルコンサート」チケットを特別販売致します。

### 2015年度 第2回カフェ・サロン 8月2日(日)

一昨年に引き続きピクニックコンサートをお楽しみいただく前のひと時をアリーナでおくつろぎいただけるよう、お待ち致しております

「PMFを応援する会」募金者の集い

### 「ピクニックコンサートで会いましょう」

8月2日(日) 11:00～15:00 芸術の森アートホール ロビー

- フリーコーヒーとお菓子をお楽しみいただきながら交流。
- アカデミー生や修了生と会えるかもしれませんよ!





## プロフィール

藤女子大学文学部文化総合学科教授  
PMFを応援する会 フェロー

## 専門

ヨーロッパ中世史、キリスト教史

## 研究テーマ

中世時代の人々の生活とキリスト教との関わり

## 今回のイタリア滞在の目的

10世紀から13世紀にかかれたラテン語史料  
および近代の研究文献の調査・収集

## 「イタリア人は声大きいが... 声や音はコミュニケーション！」

私の宿舎は表通りから松の並木道を100メートル以上入った敷地にあります。同じ敷地には駐車場と小さな庭を挟んで四つ星ホテルがあります。バスや乗用車の出入りはありますが、周囲には緑も多く閑静な環境は保たれています。庭の棕櫚、あちこちに立ち並ぶ松、ホテルの屋根などには、大小の野鳥が飛来し、それぞれのさえずりを聞かせてくれます。

また、あたりに散在する教会からはときおり鐘の音が聞こえてきますが、そのうちの一つが朝夕に奏でるのはシュールベルトの「アヴェ・マリア」です。

環状線らしき表通りに出ると状況は一変します。車の往来もさることながら、イタリア人はやたらクラクションを鳴らします。朝の交差点は見ものというか、聞きものです。イタリアでは黄色信号でも車は平気で交差点に入っていきます。少なくとも2、3日前はそうでした。当然信号が赤に変わっても渡り切れるはずがなく、青信号に変わった方の車の進路をふさぎます。

こうしてクラクションが鳴り始まるわけですが、2台や3台なんておとなしいものではなく、10台あるいは20台くらいが次々といろいろな音を鳴らし始めます。それに緊急車両のサイレンが加わり、交通整理に出ている警官も笛を吹きます（信号機がある交差点で交通整理が必要なのは、毎日こんな状況だからにちがいません）。ともかく、ここまできると雑音、騒音の域を越えて、協奏と言った感じで、当事者ではない一歩行者にとっては、この上なく楽しいひと時になります。

ローマの街の騒々しさは、20年以上前になりますが、初めて訪れて以来の変わらない印象です。なによりもまず、

イタリア人は声大きい。パールでもカフェのテラスでも、携帯電話でも、大きな声で会話を楽しんでいます。また、地下鉄構内での演奏もよく見かけます。先日、スペイン階段近くのスーパーニャ駅構内では、アコーディオンのデュオに出くわしました。また最寄りのコルネリア駅で見かけたのはギター1本による演奏でした。たいていの場合、音響機材によるリズムなどをバックにしたパフォーマンスです。

前回7年ほど前に訪れたときには、こんなことがありました。地下鉄のテルミニ駅あたりで、1人の男がキャスターに音響機材を載せ、ギターを持って乗り込んできました。車輦の中の話です。すかさず機材からのリズムをバックに1曲を披露。そのあと、「ボンジョルノ、ボンジョルノ」と、乗客の間を、紙コップを差し出して小銭を求めて歩くわけですが、これが一駅間の出来事でした。日本だったらどうでしょうか。車輦の中などもってのほか、駅構内にしても面倒な手続きが必要となるはずで。

人々が大きな声で話す社会、やたらクラクションを鳴らす社会、あちこちから教会の鐘が聞こえてくる社会、しかしそれに不平を言っているようでもない社会、それはどんな社会なのでしょう。

一方には、車内の赤ん坊の泣き声がうるさいとか、祭りの騒々しさが迷惑だとか、公園や幼稚園の児童の声を騒音として訴えるとか、そういった社会もあります。薄っぺらな印象に過ぎないかもしれませんが、イタリアにはどこか、声や音を出すことへの寛容さがあるのではないかと、そもそも声や音はコミュニケーションの手段であってそれを尊重するからではないかと、などと感じたりしています。

発行 「PMFを応援する会」

〒005-0854

札幌市南区常磐4条2丁目17-13

「カフェ・ディ・レニー」内

FAX: 011-827-5181

ホームページ

<http://pmf-support.main.jp/>

フェイスブック

[www.facebook.com/much.love1990pmf.sapporo](http://www.facebook.com/much.love1990pmf.sapporo)

印刷協力 株式会社マルシン

## 〈 編集者のつぶやき 〉

花のたよりが、あっという間に北海道を駆けぬけて行きました。2015年のPMFもいよいよ幕開けです。

芸術の森、キタラ、カフェ・サロン、あなたの街で... どこかで素敵な音や声のメッセージとともに出逢えることを楽しみに協奏No.13をお届けいたします。(ひ)